

**世界** 世界各国で助成が活かされています。  
過去50年間に日本万国博覧会記念基金の助成を活用して建設された海外の施設についてご紹介します。

## < 第4回 >

### カウラ日本庭園 & 文化センター (オーストラリア)



カウラ日本庭園 & 文化センターは、シドニーの西320kmのカウラ市にある約5haの面積を有する南半球最大規模の日本庭園です。万博記念基金では、過去に日本庭園 & 文化センターの建設や改修、催しの実施に際して助成をしてきました。現在、同施設の管理をしているマネージャーのマーガレット・デビッドソン (Margaret Davidson) さんに、カウラ日本庭園 & 文化センターについてご紹介いただきました。

助成年度	助成事業名	助成事業者	金額
1976年度	「日本文化センター・日本庭園」の建設	カウラ観光開発公社	19,346,250円
1985年度	日本庭園の整備・施設の建設	カウラ観光振興協会	30,000,000円
1992年度	カウラ日本庭園桜並木街道への給水事業	カウラ観光振興協会	10,692,638円
2022年度	東西のハーモニー：オーストラリアの日本庭園ストーリー	カウラ日本庭園文化センター	1,500,000円



1979年に開園したカウラ日本庭園は、12.5エーカー(約5ha)の面積を有する南半球最大の日本庭園です。

世界にはたくさんの日本庭園がありますが、カウラ日本庭園は単なる庭園ではありません。日本とオーストラリアの友情と共感の象徴であり、両国の相互理解と平和を促しています。また、オーストラリアにおける日本文化の拠点となっています。



庭園と茶室

カウラと日本の関係は、1944年に1,000人を超える日本人捕虜がカウラ捕虜収容所から脱走したときに始まりました。脱走で亡くなった日本人はカウラの墓地に埋葬され、日本とオーストラリアの両国で協力して手入れされています。この事件から、日本とカウラとの相互の尊敬と友情が生まれ、この友情の象徴として日本庭園が建設されました。



庭園の溪流

庭園は、世界各国で日本庭園を作庭している中島健氏の設計で、江戸時代の庭園設計の原則に基づいた回遊式庭園となっており、丘の上の岩は日本の山を表し、岩から流れ出る水は溪流を表しています。上の湖は内水、下流は川、下の湖は海です。湾曲した生け垣は日本のなだらかな丘陵を

象徴し、草木は日本の植物です。園内にある露天茶屋などの建物は、日本の町村を象徴するもので、伝統的な江戸時代の様式で建てられています。また、自然の地形を取り入れた「借景」という技法を用いており、庭からカウラの風景を眺めることができ、地元の植物や岩などを庭園に取り入れて、他の庭園とは異なる独特の環境を作り出しています。



庭園から眺めたカウラの風景



桜祭りでの太鼓演奏

庭園に併設された文化センターには、陶磁器、金属細工、木彫り、建築模型、絵画、巻物、漆器、織物、伝統的な人形など、日本の美術品や工芸品の重要なコレクションがあります。

現在、カウラ日本庭園 & 文化センターには年間5万人ほどの来場者があり、春には桜祭り、秋には紅葉祭りなど季節ごとのイベントや茶道、伝統舞踊、相撲、刀剣、生け花、盆栽などの日本文化を紹介するイベントを実施しています。

オーストラリアを訪れる際は、カウラ日本庭園 & 文化センターを訪れて、この特別な場所をお楽しみください。



裏千家による茶道の紹介

(写真提供: Cowra Japanese Garden & Cultural Centre)

## 2022年度 EXPO'70スカラシップ 奨学生による中間報告会を開催 2月8日/難波御堂筋ホール

### 日本文化に関する多彩なテーマを対面で発表

「EXPO'70スカラシップ」を活用して、それぞれが目標に掲げた研究テーマを追究する外国人留学生(奨学生)たちが、これまでの学業生活で学んだこと、調査したこと、制作したことについて中間報告を行いました。

関西・大阪21世紀協会は、奨学生が自らの研究テーマを深掘りすることを目的に、年に2回程度の報告会を計画していました。しかし、今般のコロナ禍により実施が延期され、今回初めて、2022年度奨学生4名と審査委員3名、当協会スタッフが会場に集い対面での報告会が実現。染色、映像制作、ポップカルチャーの特質、敬老・長寿を祝うなど、日本文化に関する多彩なテーマが発表され、審査委員各氏から専門的見地での質疑や、さらなる研究に向けたアドバイスが出されました。奨学生同士にとっても、対面で交流できる貴重な経験となりました。

その後、奨学生たちは国立文楽劇場にて上方歌舞伎と伝統舞踊を鑑賞し、日本の文化に親しましました。



クワン チェンウェン  
**關 正玫さん**

京都市立芸術大学  
大学院美術研究科

研究テーマ

日本と台湾両国に共通の「染める」文化について



ジョ イツブン  
**徐 逸文さん**

京都市立芸術大学  
大学院美術研究科

研究テーマ

映画と精神分析の  
関連性について



チョウ シモウ  
**張 子萌さん**

大阪大学大学院  
人文学研究科

研究テーマ

日本のアニメ映画における  
日本文化の特質 -「君の名は。」を例として-

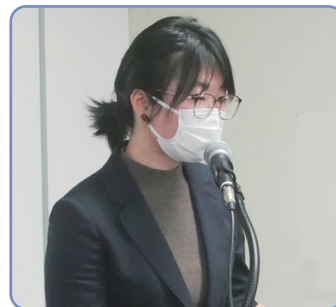


ヒョウ チェンチェン  
**馮 辰鍼さん**

早稲田大学大学院  
文学研究科

研究テーマ

日本における尚歯会と  
くそうかん  
九相観享受の実態



左から張 子萌さん、關 正玫さん、馮 辰鍼さん、  
徐 逸文さん(国立文楽劇場にて)

## 助成先の事業紹介

2022年度助成事業の中から、事業者より寄せられた報告をご紹介します。

### 2022 AT ARTS EXHIBITION

### 浄厳院アーティスト in レジデンス・浄厳院現代美術展

事業者：AT ARTS

助成金額：100万円

実施期間：2022年8月25日～11月7日

実施場所：金勝山浄厳院

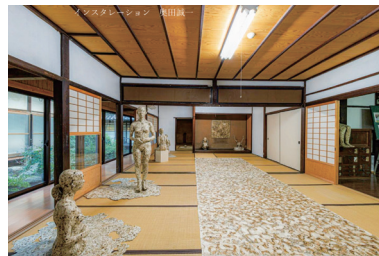
(滋賀県近江八幡市安土町慈恩寺744)



9月4日 オープニングセレモニー 西アフリカセネガル サバルダンス(9月4日)

8月25日からウクライナ・ポーランド・韓国の5人のアーティストを滋賀県安土に招待し、戦国の世に国際交流を夢見た織田信長が創建した浄厳院でアーティスト in レジデンスを行いました。10月22日～11月6日には現代美術展を行い、『場』をテーマに国内外の作家26名が境内や建物の中に作品を展示しました。壮大な寺院で文化遺産と現代美術が共に引き立て合う展示となり、ワークショップ、

パフォーマンス、トークショーを、11回延べ13組で開催しました。イベントと展覧会を合わせて、参加者数は延べ1,176名でした。ウクライナ



インスタレーション 奥田誠一

人のルイーザさんは、『あす、すべてが終わってしまう前に、ウクライナ画家が描く風景』とした作品をNHKで何度も取り上げられ、地元の小学校2校の平和学習にも招待



パフォーマンス 舞踏&ライブ音楽 桂勲とArts Flying Pan(11月3日)

されました。コロナ以来の国交再開にあわせた交流事業で、ビザの獲得費用や旅費の高騰においても、万博基金の助成を心強く感じました。

### 2022 スイス・パリ雅楽公演

事業者：公益社団法人北之台雅楽アンサンブル

助成金額：270万円

実施期間：2022年9月19日～10月3日

実施場所：9/22 スイス連邦工科大学ワークショップ

(チューリッヒ、126名参加)

9/23 チューリッヒ音楽院公演

(チューリッヒ、250名参加)

9/24 在スイス日本国大使館ワークショップ

(ベルン、50名参加)

9/26 フランク・マルタン公演

(ジュネーブ、300名参加)

9/30・10/1 パリ日本文化会館公演

(パリ、2日で423名参加)

本事業は、1970年大阪万博の理念ならびにSDGs理念(持続的開発目標)を基調とし、千数百年の悠久の歴史を



浦安の舞

経て現代も息づいている「雅楽」を紹介するものです。

元宮内庁楽部首席楽長・安齋省吾師(横笛)に特別出演していただき、二部構成の公演としました。第一部は、



管絃

平安時代に隆盛した歌謡の一つである催馬楽『更衣』を唱和。続いて、祝賀の曲『越殿楽』および梵語に由来し仏誕会に奏される『陪臚』の管絃曲を演奏しました。

第二部は舞楽。天皇即位の大礼で舞われる四人舞『萬歳楽』、龍頭を模した仮面を被る勇壮な走舞『陵王』、そして、十二単に身を包んだ舞人が気高く平和を祈る神楽舞『浦安の舞』を披露しました。最後は、声楽家・ひなたおさむ氏による『越殿楽今様』『君が代』の歌で花を添え、どの会場でも万雷の拍手をいただきました。

来場者からは、雅楽の繊細さ、日本の美意識、質の高い芸術性といった高評価が寄せられ、現地各主催団体からは次回の公演を切望されました。

万博基金のご厚情の賜物と衷心より御礼申し上げます。

## HLAB TOKYO 2022 サマースクール

**事業者：**一般社団法人 HLAB  
**助成金額：**270万円  
**実施期間：**2022年8月15日～23日  
**実施場所：**東京都渋谷区（恵比寿ガーデンプレイス）、港区（六本木アカデミーヒルズ）、台東区（浅草エリア）の施設およびフィールド（宿泊地：タカオネ〈東京都八王子市〉）



8日間の宿泊型リベラルアーツ教育プログラムとして、HLAB TOKYO 2022 サマースクールを開催しました。2020・2021年度はCOVID-19の影響により、宿泊型での実施ができなかったため、3年ぶりの対面開催となり、75名の高校生と29名の日本人大学生、20名の海外大学生（9カ国）が寝食をともにしながら学びました。

参加した高校生は、海外の大学生による英語での少人数

ゼミ形式の授業を通じて、学びと探究の面白さに触れました。講演会には「若者が声を届け、その声が響く社会をつくる」をビジョンとして活動する団体の理事である能篠桃子さんをお招きし、政治参加をテーマにお話いただく中で、社会のためにどう行動するかを考えました。また、日本舞踊家 孝藤右近先生による盆踊りのワークショップも行い、日本とはルーツが異なる人々も一緒に日本の文化を体感し、考える機会となりました。

今回いただきました助成金を、タカオネでの宿泊や、サマースクール当日のフィールドワークへの旅費、高校生に手渡すパンフレットの制作費用などに使わせていただき、私たちの大切にしている「寝食をともにする」を改めて実現する上で大変大きなサポートとなっただけでなく、東京というフィールドの強みを生かした有意義なプログラムを十分に実現することができました。

## 「共に生きる」をめざす日米演劇協働 じゆう劇場の挑戦

**事業者：**特定非営利活動法人 鳥の劇場  
**助成金額：**238万円9千円  
**実施期間：**2022年9月6日～27日  
**実施場所：**鳥の劇場（鳥取県鳥取市鹿野町）



本事業では、二つの作品上演と上演作品にまつわるトークや対談といった関連事業を実施、両事業合わせて

延べ364名の方にご来場いただきました。

上演作品は、ニューヨークのオフブロードウェイで活動し、障がいのある俳優も所属する劇団「TBTB (THEATER

BREAKING THROUGH BARRIERS)」の作品と、TBTBが短期滞在し、じゆう劇場（鳥の劇場がプロデュースする、障がいのある人とない人が一緒に演劇作品を創作する劇団）とともに、新たに共同制作した作品です。

共同制作作品の中で、出演者が日本語と英語でコミュニケーションし、最後に人と人をつなぐのは「愛」だという結論に達するのですが、これは文脈が違えば、予定調和的で陳腐に見えたかもしれません。しかし、舞台上での彼らの真摯な内面の吐露を通じて至る結論としての「愛」は、観客にとって深く胸に迫るものがありました。これは本事業の大きな成果の一つであると感じております。



## 第14回宇宙空間シミュレーション国際学校

**事業者：**第14回宇宙空間シミュレーション国際学校実行委員会  
**助成金額：**56万9千円  
**実施期間：**2022年9月12日～17日  
**実施場所：**完全オンライン

本事業は、地球を取り巻く宇宙空間の定量的理解に非常に有効な研究手段である計算機シミュレーションに特化した国際学校です。1981年に京都で第1回が開催された後、日欧米の間で場所および運営を交代しながら継続的に開催され、2022年9月には日本担当により第14回を完全オンライン形式で実施しました。

全体で167名の参加があり、そのうち119名は海外からの参加でした。参加国はアジア、欧州、北米、オセアニアの26か国にわたり、国際的なスクールの開催となりました。

9名の国内外の講師がZOOMを使って宇宙空間シミュレーションのさまざまな手法に関する講義を行い、参加者はオンラインで各講義を熱心に受講し質問応答も活発に行われました。また、オンラインポスターセッションを開催し、30件ほどのポスター論文の発表、議論が行われました。

参加者間のコミュニケーションが取りにくいオンラインでの開催となりましたが、本事業がきっかけとなり、参加した若手研究者や大学院生が本格的に宇宙空間シミュレーションに取り組み、宇宙空間物理現象の解明や、月などで人類活動が盛んになる宇宙環境評価など、さまざまな研究成果の創出につながることを期待できます。

